

幼保連携型認定こども園 **西神戸 YMCA 保育園** 2月えんだより

「ここに愛があります。」

(ヨハネの手紙Ⅰ 4章10節)

一年のうちで最も寒い季節がやってきました。毎日、寒い中でも、子ども達の声が響き合うなかに、共に居られることに、本当に幸せを感じます。寒さに弱く春が待ち遠しいですが、子ども達と共に、健康に留意して過ごしていきましょう。

さて、毎月、聖句の話を書いていますが、一言でいえば、それは「愛の教え」なのです。愛にも色々あります。親子の愛、友達としての愛、異性の愛…。「愛」という言葉は、とても美しい響きがありますし、愛は、人の心を温め、慰め、励まします。大袈裟に言えば、愛が無ければ、生きていくことができないのではないのでしょうか。

しかし、愛は、時には憎しみに変わることがあります。人を癒すはずの愛が、人を傷つけ、人を生かすはずの愛が、人の命まで危険を冒すこともあるのです。それは何故なのでしょう。聖書の中では、その愛が、人間から出た愛だからといいます。どんなに「あなたを愛しています」と言っても、実は、自分が愛されたいとか、自分が満たされたいとか、自分がいい思いがしたい…というように、自分に向かってくる愛が含まれているからなのです。ゆえに、自分の意に反したり、自分が傷つけられたり、追いつめられたりすると、愛が憎しみに変わったりします。これが、人間の愛の限界なのだとも言われます。

神様の愛は、次のように書かれています。「私たちが、神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、人間の罪のために、御子を遣わされた。ここに愛があるのです。」<ヨハネ手紙Ⅰ4章10節>つまり、私たちが、神様は万能だ、絶対だ、…と信じて抱く思いよりも前に、実は神様の方が、私たちを愛してくださるというのです。その愛は、何かの報いを求める愛ではなく、私たちが一方的に愛してくださる愛で、自分に向かう愛ではなく、相手に与え尽くす愛なのです。私たちが、神様を知らず、無関心に、神様と敵対し続けていた二千年以上も前に、私たちのために、御子イエス・キリストを送ってくださいました。そして、イエス・キリストは、罪のない神の御子でしたが、十字架にかかって死なれました。それは、私たちの受けるべき裁きを、代わって受けたためであり、それゆえに人間は罪を赦され、裁きから免れたのです。ここに、真の愛がありました。

子ども達は、この世に、人に愛されるために生まれてきました。また、愛されるために生きています。そして、人を愛することを学びます。こどもを真ん中に据えた社会の実現のためにも、子どもの育ちを中心にした歩みを続けていきましょう。

年主題 「つながって」 ～今、わたしを生きる～

2月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	いっしょに	力あわせて
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っていることばを使って、思いを伝えようとする。</li> <li>・友達や保育者と一緒にいることを喜ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寒さの中でも守られているのちを知る。</li> <li>・お互いの違いを認めつつ、助け合うことに喜びを感じる。</li> <li>・友達と伝え合ったり、話し合ったりしながら遊びを作り出す。</li> </ul>
讃美歌	「つくしのよう」 幼児讃美歌 50	「きゆうこんのなかには」 こども改 135